

【一般幹部候補生 平成26年4月採用者の声①】

採用区分:陸 性別:男性

最終学歴時の専攻学部・学科:公共政策専攻

Q 第1次試験（学科試験）の準備はどの程度行いましたか？

また、準備間に使用した教材はどのようなものでしたか？

大学院入学から試験の5月までの約1年間（週5～6、6時/日）です。また学校の公務員講座を受講し、予備校TACの教材、スーパー過去問ゼミ、速攻の時事・英語など使用しました。

Q 第2次試験（口述試験、身体検査）の準備はどの様に行いましたか？

参考とした資料はどのようなものでしたか？

日頃から新聞にざっと目を通すこと（私の場合は読売）、速攻の時事は必須です。文章は普段レポートなどをやっているので、2次が決まってからで対策可能でした。テレビで気分転換もかねて、池上彰のニュースやTVタックルなども見ていました。

Q 内定（最終合格者）した時の感想は？

当然嬉しいですが、緊張がほどけてほっとしています。
受かったら行くと決めていたのでさらにやる気が増します。

Q 他の就職先と比べた場合、幹部候補生の魅力と感じるものは何ですか？

自衛隊という組織が、個人の教育にも力を入れているため様々な能力向上につながることや、幹部の地位から始まることもあり、やはり将来性に期待を持てると思います。

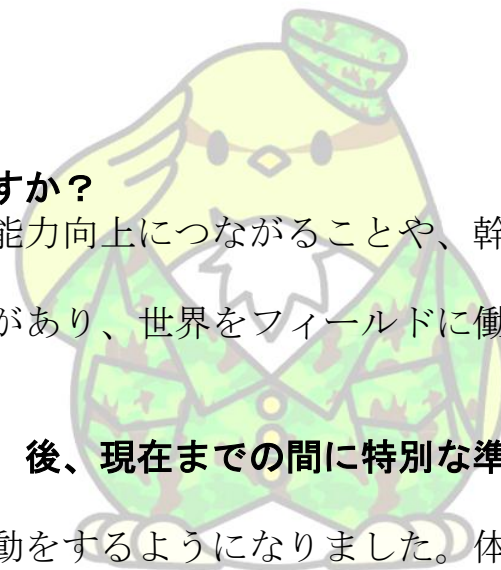
また世間一般にも知られている職業のため、様々な仕事のあり方があり、世界をフィールドに働けることも魅力だと思います。

Q 内定（最終合格）後、どの様に過ごしましたか？内定（最終合格）後、現在までの間に特別な準備を行いましたか？

内定後は体がなまってしまっていたこともあり、すぐに適度な運動をするようになりました。体力錬成は年明けから本格的に始めました。（ジム・ランニングなど）

また自分自身の体・健康について見直す事もしました。

そして防衛に第一に関わっていく職業なので現在の国際情勢や歴史についての本なども読むようになりました。



【一般幹部候補生 平成26年4月採用者の声②】

採用区分:陸 性別:男性
最終学歴時の専攻学部・学科:公共政策専攻

**Q 第1次試験（学科試験）の準備はどの程度行いましたか？
また、準備間に使用した教材はどのようなものでしたか？**

他の公務員試験の勉強と併せて15ヶ月程度、幹部候補生のみでは2, 3ヶ月前から対策を始めました。一ツ橋書店から発行の『自衛隊一般幹部候補生採用試験』で該当する試験科目のページを解きました。私は専門教養を人文科学で解いていたので、『スーパー過去問ゼミ』の人文科学や『光速マスター』の人文科学などもよく利用しました。

**Q 第2次試験（口述試験、身体検査）の準備はどの様に行いましたか？
参考とした資料はどのようなものでしたか？**

ほぼ参考資料通りの基本的な口述試験でした。対策としては参考資料とネット上の情報から頻出度が高そうな問いから模範回答を考えて、丸暗記ではなくいくつかポイントを設けて部分的に覚えました。ネット上の情報は低俗で下品なものも多いですが、使いこなせれば大変受験対策の有効なツールになると思います。

また試験会場到着後に面接シートを書く必要がありましたが、到着時間が遅い人ほど不利な状況で記入することになりました。視力対策に裸眼で遠くを眺めたり、何もつけずに生活したりなどしました。

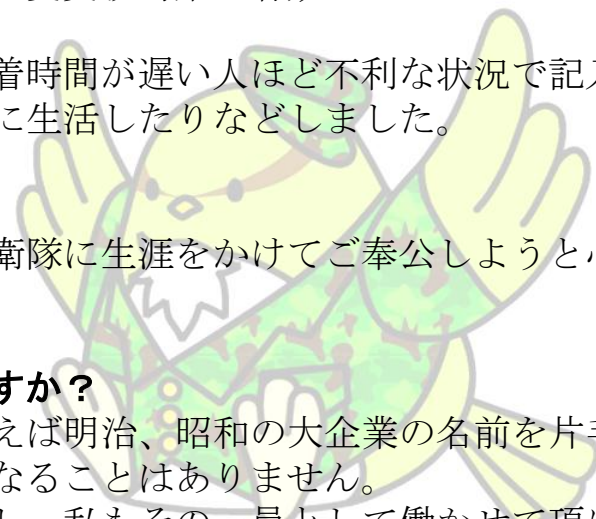
Q 内定（最終合格者）した時の感想は？

涙が出るほど嬉しく思い、自分のような半端者を雇って下さる自衛隊に生涯をかけてご奉公しようと心に決めました。

Q 他の就職先と比べた場合、幹部候補生の魅力と感じるものは何ですか？

世の中には数多くの組織、企業が存在します。しかし、我々が例えば明治、昭和の大企業の名前を片手指でしか数えられないのに対して、自衛隊という組織はその性質上なくなることはありません。

海軍及び海上自衛隊はいつまでも人々の記憶に残ることでしょうし、私もその一員として働かせて頂けることに大変喜びを感じます。



Q 内定（最終合格）後、どの様に過ごしましたか？内定（最終合格）後、現在までの間に特別な準備を行いましたか？

現在の仕事を辞めて実家に帰り、体力錬成と教養の更なる向上や船舶、座学で自習勉強が可能な科目を書籍等を通じて学びました。

合格者の出身大学等を眺めてみると、世間一般でいう高学歴の方が非常に多く、基礎学力の高さが伺えました。さらに、自衛隊内でも格段に精神主義教育を重視される海上自衛隊幹部候補生学校への入校なので、指揮官として恥ずかしくない学力と体力を身に付けるために基礎力の向上を続けていました。



【一般幹部候補生 平成26年4月採用者の声③】**採用区分:海 性別:男性****最終学歴時の専攻学部・学科:海洋生産管理学科****Q 第1次試験（学科試験）の準備はどの程度行いましたか？****また、準備間に使用した教材はどのようなものでしたか？**

準備期間は約1年間、同じ参考書を3回通り解き、問題の出題形式や解き方を覚えました。使用教材は一ツ橋書店『自衛隊一般幹部候補生採用試験』です。

Q 第2次試験（口述試験、身体検査）の準備はどの様に行いましたか？**参考とした資料はどのようなものでしたか？**

口述試験の準備は新聞のコラムや社説をノートに切り貼りし、自分の考えや感想をまとめました。また、自衛隊のホームページを見たり、自衛隊の活動に関するテレビ・ニュースを見ていました。

身体検査の準備は試験3日前頃からお茶やミネラルウォーターをよく飲むようにしました。

Q 内定（最終合格者）した時の感想は？

これまでに自分のしてきたことが結果として現れ、努力が報われたと実感しました。また今後、自衛官として働くことに名誉を感じました。

Q 他の就職先と比べた場合、幹部候補生の魅力と感じるものは何ですか？

国家公務員であり、社会的身分が明確に示されていることや、国の防衛、災害派遣等を通して直接国、国民に奉仕できることです。また幹部候補生として大きな価値観、視野を培うことができると思います。

Q 内定（最終合格）後、どの様に過ごしましたか？内定（最終合格）後、現在までの間に特別な準備を行いましたか？

内定後の過ごし方は高校程度の英語・数学の復習、体力錬成は腕立て伏せ、腹筋をそれぞれ2分間でできるだけやっています。ランニングや水泳もしています。特別な準備は航海学(船位、航程、針路、航程の線航法)の基礎部分だけです。

